

こんな苦勞があります

この秋の展覧会では、普段あまり見ることのできない貴重な資料（古いもの）がならびます。千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館がもっている「江戸図屏風」という豪華な金色の屏風絵です。こうした貴重な美術品（文化財）は、疵などが付かないように、専門スタッフ数名とやまびこ館（鳥取市歴史博物館）の学芸員がていねいに検査・梱包（包むこと）してから専用トラックで運びます。私も千葉県から鳥取市まで一緒にトラックに乗って運びました。

「江戸図屏風」は1年間のうち公開できる期間が定められていて、所有者の国立歴史民俗博物館でも限られた期間しか展示できません。それがこやまびこ館でみられるのです。ですが残念ながらお詫びをしないでなりません。やまびこ館に許していただいた実物の展示期間は2週間余り。現在は複製資料（レプリカ）の「江戸図屏風」に変わっています（10月26日から）。貴重なものを見るには色々な制限があるのです。でも複製資料の良い点もあります。実物は退色しないように照明を暗く制限していましたが、複製ならばある程度明るくできますし、展示ケースのガラスにかなり近づけて屏風を置くことができます。既に一度見られた人もまだ見ていない人も思いっきり「江戸図屏風」を楽しんでください。屏風に描かれている絵は見やすくなっていると思います。

こんなことが描かれています

今からおおよそ400年前の西暦1603年に徳川家康が征夷大将軍になり、江戸（現在の東京）に幕府を開いたのが江戸時代の始まりです。

この屏風はそれから30年後の江戸の様子を描いています。小・中・高校の社会科や歴史の教科書によく紹介される有名な屏風絵なので記憶にある人もいるかも知れません。

江戸城の黒い五層の天守閣を中心に江戸の周辺を描いています。屏風に登場する人の数はどれくらいか想像がつかますか？なんと全部で4983人も描かれています。3代将軍徳川家光は屏風のあちらこちらに登場しますがそれを見つけるのも楽しみの1つ。まるで「ウォーリーを探せ！」みたい。でもどの「家光」もお顔は見えないようにかかっているのが不思議です。

そのほかには武士（お侍さん）、僧侶（お坊さん）、町人、商人、港や河岸などで働く人たち、道路でも色々なことをしている人がいます。江戸城から遠く離れた農村では農作業のお仕事をしている人もいます。「江戸図屏風」は実に色々な人たちが登場するので「江戸時代の図鑑」といってもいいかも知れません。

いま日本の中心になっている東京の発展は江戸時代から始まりました。私たちが住んでいる鳥取も江戸時代に藩主（殿様）の号令でたくさんの人たちが城下町の大仕事をなしとげて発展してきた歴史があります。私たちの生活は江戸時代の人々がつくったものに今も支えられているのです。

（鳥取市歴史博物館学芸員 伊藤康晴）

六年生の社会の教科書にもでてくる『江戸図屏風』スミからスミまでながめてみよう

おうちだに画報

鳥取市歴史博物館

特別展「大名たちの庭園－江戸藩邸と諸藩城下の庭園風景－」

11月14日(日)まで開催中！

■問い合わせ先 やまびこ館

(上町88・☎23-2140)



江戸図屏風(国立歴史民俗博物館所蔵)の一部分